

福島イノベーション・コースト構想推進機構 2026年9月の主な取組

2026年10月6日

公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構

ふくしまイノベ未来講座

福島イノベーション・コースト構想への理解促進や探究学習の充実、将来のイノベーション人材の育成を目的とする「ふくしまイノベ未来講座」を **計7講座** 実施し、**延べ359名** が受講した。

No.	実施日 9月	依頼者	対象	学年	人数	講師		
						氏名	所属	講義 演題
1	2日	相馬市立向陽中学校	中学校	1年生	107	望月 翔太	福島大学 食農学類	クマの防災教室
2	7日	福島県立南会津高等学校	高校	3年生	24	佐藤 理夫	福島大学	再生可能エネルギーとSDGs
3	10日	いわき市立泉中学校	中学校	3年生	25	伊東 敦子	福島ロボットテストフィールド	あるくメカトロウィーゴのプログラミング操作体験
4	16日	相馬市立向陽中学校	中学校	1年生	105	野崎 謙司 等	日本赤十字社 福島支部	防災講座（避難所運営ゲーム・蒸しパン作り・新聞紙スリッパ・災害時のトイレ作り、みんなでわけよう）
5	24日	平田村立ひらた清風中学校	中学校	3年生	46	松浦 冬樹	福島イノベ機構	福島イノベーション・コースト構想とは
6	25日	福島東稜高等学校	高校	複数	26	松浦 冬樹	福島イノベ機構	福島イノベーション・コースト構想とは
7	25日	福島東稜高等学校	高校	複数	26	河合 達也	浅野燃糸株式会社	岐阜の町工場での企みin双葉

⇒ pick up : 注目の出前講座

相馬市立向陽中学校 クマ対策を「命を守る行動」へ

開催日：9月2日（水）参加人数：107名

地域防災の学習として、福島大学准教授・望月 翔太氏からクマの生態と遭遇時の対応を学習。「目を離さず、ゆっくり後ずさり」「頭・首・腹を守る防御姿勢」を実演・実践した。被害データも交え、知識を実際の行動につなげる重要性を確認した。



 福島テレビが取材 講座の様子を同日放送

福島県立南会津高等学校 再生可能エネルギーとSDGs

開催日：9月7日（月）参加人数：24名

福島大学名誉教授・佐藤 理夫氏を講師に、再生可能エネルギーの基礎、福島県の現状、地球温暖化・カーボンニュートラルとのつながりを学習。

「2030年の、その先」を見据え、グループワークを通して地域と自分たちの未来を考えた。



 NHKが取材
講座の様子を翌8日（火）に複数回放送

【伝承館】 ふくしまビエンナーレ2026

隔年で開催される現代アートの祭典が双葉郡で開催され、伝承館も作品展示やイベント会場として協力しました。

期間中はオセロを模した作品や鯉アート作品、アンモナイト型の屋外オブジェなどを館内に展示したほか、オープニングイベント、箭内道彦氏講演会、各種ワークショップなど多彩なイベントで賑わいました。

日 時

令和8年8月23日（日）～9月26日（土）

場 所

東日本大震災・原子力災害伝承館

参加人数

14,070人（開催期間中の来館者数）

主催等

主催：福島現代美術ビエンナーレ実行委員会、
国立大学法人福島大学 芸術による地域創造研究所
共催：（公財）福島イノベーション・コースト構想 ほか

【来館者の声】

「伝承館とビエンナーレのコラボレーション、とても素敵ですね。家族で楽しめます。」「双葉の方とオセロを通じてつながれたことが不思議な気持ちです。アートのおもしろさ、奥深さ、楽しさが伝わりますように・・・！」



【伝承館】 (公財) 明治安田こころの健康財団 研究助成贈呈式

伝承館の鈴木美枝子研究員の研究課題「医療的ケア児と家族のこころの健康を支える災害時支援のあり方に関する研究」が、「明治安田こころの健康財団研究助成」に採択され、9月3日に研究助成の贈呈式が行われました。

当日は、同財団の岸本理事長から挨拶の後、岸本理事長から鈴木研究員へ目録が手交されました。

日 時

令和8年9月3日(木) 10:30～11:30

場 所

明治安田生命保険相互会社 いわき支社富岡サービス窓口

参加者

明治安田こころの健康財団 岸本理事長
明治安田生命保険相互会社 菅野いわき支社長 (ほか)
伝承館 鈴木研究員 (ほか共同研究者3名)

主 催

(公財) 明治安田こころの健康財団

【岸本理事長コメント】

「この地域のことだけでなく、他の地域で今後発生する災害のことも考えながら、皆さん自分のお仕事もあると思うが、助成により研究を進めてほしい。」



ビジネスアイデア事業化プログラムワークショップ&交流会実施

FTCビジネスアイデア事業化プログラムでは毎月1回ワークショップを実施しています。

8月4日のワークショップDAY2では「用途仮説の構築」をテーマにしたワークショップを行い、外為法や薬機法など、事業を進めるうえで注意すべき法規制についてのレクチャーも実施しました。

ワークショップ後にはFTCアラムナイ、メンター、特許庁及び県・イノベ機構関係者との交流会も実施しました。



ワークショップの様子



令和8年度採択者はアラムナイやメンターから元気をもらいました。

ビジネスアイデア事業化イノベ地域視察ツアー実施

9/3-4にビジネスアイデア事業化プログラムに採択された15者全員でイノベ地域視察ツアーに行ってきました。初日はあぶくま信用金庫本店にてあぶくま信用金庫様と南相馬市様のスタートアップ支援策についてお話を伺いました。その後、双葉町職員の方に説明していただきながら、双葉駅前でフィールドワークを行い、F-BICCにて『浜通りの関係人口・定住人口を増やすため、課題解決となるサービス・製品を創出する』をテーマにワークショップを行いました。

2日目はOIC、請戸小学校を訪問し、道の駅なみえでは浪江町様のお話を聞き、浜通りのお土産もたくさん買いました。その後MICにてゆめサポート南相馬様の支援策を伺い、R4ビジネスアイデア事業化プログラム参加者であるAstroXの南相馬工場を見学しました。

この2日間で、イノベ地域の現地を歩き、現場の方と触れ合うことで、ビジネスアイデアのブラッシュアップと奮起に繋げることができました。



open roastery Alu.にてフィールドワーク



F-BICC屋上から町を見ながら説明を聞きました



ワークショップ（F-BICCにて）



AstroX南相馬工場にて

主催

福島県
福島イノベーション・コースト構想推進機構

【伝承館】 コリン・ロバートソン次期駐日英国大使 伝承館訪問

駐日英国大使館のコリン・ロバートソン次期大使が9月4日、東京電力福島第一原発を含む浜通りを視察され、伝承館を来館されました。

ロバートソン次期大使は、当館の齊藤部長の案内により、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の展示を見学されました。

日 時

令和8年9月4日（金）

場 所

東日本大震災・原子力災害伝承館

訪問者

駐日英国大使館 コリン・ロバートソン次期大使
ほか5名



ロバートソン次期大使は、福島では津波による直接死よりも災害（原発事故）関連死の犠牲者が多いことや、水素爆発後の第一原発のジオラマを見ながら事故原因について解説を受けられました。また、放射線量を低下させる除染や、除染廃棄物の中間貯蔵施設などについて説明を受けられました。

「ふくしまフェスタ in 恵比寿ガーデンプレイス」ブース出展

福島イノベ機構では、東京都恵比寿で開催された「ふくしまフェスタ」に福島国際研究教育機構（F-REI）と合同でブースを出展しました。ブースではパネルや映像で福島イノベ構想とF-REIの情報を発信したほか、クイズを実施し、福島県浜通り等で進められている様々な取り組みについて、来場した多くの方に知っていただきました。

日 時

令和8年9月5日(土) 11:00～18:00
6日(日) 10:00～14:00
(2日目は荒天により時間を短縮)

イベント名

ふくしまフェスタin恵比寿ガーデンプレイス

場 所

東京都渋谷区 恵比寿ガーデンプレイス

主 催

福島県広報課



地域魅力開発の担い手創出事業 大学連携型フィールドプログラム②（廃炉・農業分野等_北海道大）

イノベ構想の現在を知り地域住民の方とのワークショップを通じて「イノベ地域での学びの成果」をわかりやすく発信するためのプログラムの2回目を実施しました。（3回実施予定）

今回は「廃炉・ドローン分野」をテーマに、北海道大学の学生等が、富岡町のJAEA廃炉環境国際共同研究センター（CLADS）で廃炉の現状について技術的なレクチャーを受けたうえで、大熊町・浪江町の各農業関連の方との交流や、地域の活動（浪江町・双葉町）に触れ、学びや対話の成果としてワークショップで住民の方と小冊子（ZINE）を制作しました。

日 時

令和8年9月9日（水）～11日（金）

参加者

北海道大学 計10名
科学技術コミュニケーション関連の学生等

場 所

富岡町（CLADS）、大熊町（中間貯蔵情報センター・Fun Eat Makers in Okuma・ReFruits等）、浪江町（ランドビルドファーム等）

講師や対話先

委託先：一般社団法人双葉郡地域観光研究協会
ご対応者：
JAEA 廃炉環境国際共同研究センター
伝承館はじめ各視察先の皆様
大熊町企画調整課川口様・鈴木様、
他双葉町・浪江町の皆様



廃炉環境国際共同研究センター（CLADS）でのレクチャー



Fun Eat Makers
in Okuma での見学



あまの川農園での有機農業の見学

【伝承館】パネル展「熊小がある。これまでも、これからも。」



福島イノベ機構

大熊町の中間貯蔵施設内に残された「熊町小学校」に関するパネル展を開催しています。
熊町小は、震災と原発事故から15年半が経過した今、校舎は許可なく立ち入りできず、校庭には木が生い茂っており、パネル展では、原発事故により突然学校に通うことができなくなった元在校生の思いなどを伝えています。

日 時

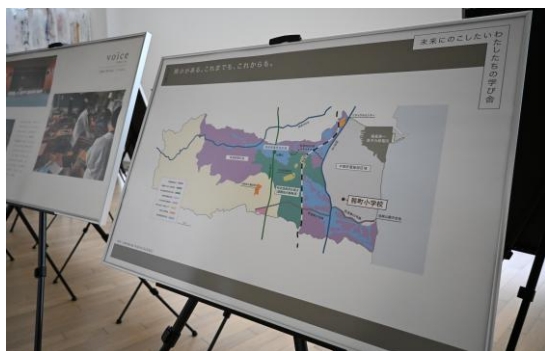
令和8年9月11日（金）～11月11日（水）

場 所

東日本大震災・原子力災害伝承館 エントランスホール

主 催

（一社）大熊未来塾、おおくまふるさと塾、福島大学地域未来デザインセンター



FTC事業 「イノベのたまご2026」 最終審査会 開催



福島イノベ機構

今回で4年目を迎えたビジネスアイデアコンテスト「イノベのたまご2026」の最終審査会が開催され、ファイナリスト7名が新しいビジネスへの挑戦やビジネスアイデアのプレゼンテーションを行いました。

全国から有望なシーズをもった若者や女性をイノベ地域に呼び込むことを目的とした本コンテストには、過去最多であった昨年を更に上回る49件の応募がありました。

その中から一次審査を通過し最終審査会の舞台に立った7名のプレゼンテーションは、福島から東北・日本の未来を創っていくために積極果敢にチャレンジしようとする姿勢を強く感じることができる熱のこもったものでした。

日 時／場 所／主 催／後 援

日時：令和8年9月12日（土）10:00～16:00

場所：双葉町産業交流センター（F-BICC）

主催：福島県、福島イノベーション・コースト構想推進機構

後援：日本政策金融公庫

各賞の受賞者

表彰内容	名前	所属
最優秀賞・海外研修派遣賞	矢田 吏	個人参加 ※所属名なし
優秀賞・海外研修派遣賞	三宅 由珠	信州大学
FTC奨励賞	小泉 綾	日本大学
	田 蕊	福島大学
FTC特別賞	西村 知紘	仙台高等専門学校
敢闘賞	竹内 一花	福島工業高等専門学校
	上原 貴太	仙台高等専門学校



ファイナリストと審査員の皆さん



最優秀賞・海外研修派遣賞の矢田さん



優秀賞・海外研修派遣賞の三宅さん

高校生連携POPポスター作成プロジェクト

県内の農業科・商業科に在籍する高校生が、各校の生産物や商品開発品の販売促進を目的としたPOPポスター制作に取り組みます。制作活動を通して学校間の交流を深めるとともに、表現力や協働力の育成を図ることを目的としています。（今回は展示・販売会）

日 時	場 所
令和8年9月12日（土）10:00～15:00	郡山総合体育館
参加人数	実施主体
30名（生徒22名、教職員8名）	主催：福島県教育委員会



7/31・8/19に作成したPOP・ポスターを今回、成果を披露する場として、9月12日（土）に郡山総合体育館で開催された「探究EXPO」において郡山総合体育館にてポスターの展示と商品の販売会を行いました。商業高校の生徒が参加しており、企業とのコラボ商品も販売しました。一般のお客様も多く訪れ賑わい、販売物はほぼ完売しました。

販売物：ジャム、はちみつ、どら焼き、シフォンケーキ、マドレーヌ、ドレッシング、ラーメン、みかんサイダー、ラムネ、野菜、梨、アイス、ヨーグルト、ベーコン、食パン、焼肉のたれ、パウンドケーキ、ラスク、カレーパン、長期保存パン、ウィンナー等

【伝承館】開館6周年特別企画「手話でつながる防災デー」

開館6周年となる9月20日に、特別企画「手話でつながる防災デー」を開催しました。

館内語り部の大谷さんによる津波から九死に一生を得た経験を伝える講話を手話通訳士が手話で伝える「手話通訳付き語り部講話」、ろう者の方と手話通訳士が防災に関する手話を来館者に伝えるワークショップを開催しました。

日 時

令和8年9月20日（月・祝）13:15～15:10

場 所

東日本大震災・原子力災害伝承館

参加人数

手話通訳付き語り部講話聴講者：約50名

ワークショップ参加者：約30名

主 催

東日本大震災・原子力災害伝承館



【アンケートの声】

「今回、手話付きと聞いて来ました」

「きこえない、きこえにく人の為の情報発信をもっとやってほしい（情報保証）」

「また手話付きでの語り部をお願いしたいです！」

【伝承館】開館6周年特別企画「特別展示見学ツアー」



福島イノベ機構

伝承館は通常自由見学となりますが、開館6周年となる特別企画として、4日間限定で特別展示見学ツアーを開催しました。

小野副館長と齊藤部長が館内を案内し、参加者へ震災前の福島と原発との関わりについて解説した後、津波漂流物の現物資料や事故直後の第一原発のジオラマについて説明、その後、長期にわたる原子力災害の被災状況を伝えました。

日 時

令和8年9月20日（月・祝）～23日（水・祝）
※各回とも13:15から1時間程度

場 所

東日本大震災・原子力災害伝承館

参加人数

約50人（4日間の延べ参加者数）

主 催

東日本大震災・原子力災害伝承館



「Fukushima Global Conference」 (運営者：葛力創造舎) の実施

福島イノベ機構では、地域の魅力を開発する担い手創出事業の一環として、(一社)葛力創造舎の企画による「Fukushima Global Conference」を実施しました。イベントには日本各地から15名の大学生が参加し、2日間のフィールドワークを行った後、3日目には学生その他、葛尾村の職員や移住者を交えての、CGOドットコムによる「ギャル式ブレスト®」で地域の魅力や可能性についてギャル目線で意見を出し合いました。

日 時

令和8年9月23日(水・祝)～25日(金)

場 所

23日：東日本大震災・原子力災害伝承館、浅野撚糸、f-atras、請戸小学校ほか

24日-25日：葛尾村役場、あぜりあ、せせらぎ荘

イベント名

Fukushima Global Conference

主 催・運 営

主催：福島県、(公財)福島イノベ機構

運営：(一社)葛力創造舎

協力：(株)CGOドットコム



第2回イノベ地域進出企業見学バスツアー(郡山市発着)

今年度新規事業として、イノベ地域に進出した企業等を訪問しイノベ構想についてリアルに体験できる見学ツアーを実施。

進出企業や拠点の見学に加えて担当者との意見交換を通じて、参加者にイノベ地域でのビジネス参入のきっかけや連携のヒントを提供。

日 時

令和8年9月25日(金) 8:30~18:00

訪問先

株式会社ライスレジ
Shine Coast Farm
福島高度集成材製造センターFLAM

参加人数

14団体18名
参加企業・団体
会津ラボ(会津若松市)、日精(郡山市)、福豆屋(郡山市)、ふたば産業文化教育研究会(郡山市)、互省製作所(三春町)、テックス・テクノロジー(郡山市)、尚楠(郡山市)、郡山ヒロセ電機(郡山市)、クラフト(須賀川市)、digitalplatformer(須賀川市)、郡山地区木材木工工業団地協同組合(郡山市)、Switch(田村市)、ジェトロ福島、F-REI

主 催

福島イノベーション・コースト構想推進機構



参加者からの感想

- ・進出企業との交流が出来た
- ・新規事業の立上りの様相を知ることができた
- ・次のツアー企画も楽しみにしている

【伝承館】 「第3回東京大学フェア」にブース出展

千葉県柏市で開催された「第3回東京大学フェア」に伝承館がブース出展しました。
津波・液状化現象のメカニズムを学ぶワークショップや実験教室を実施したほか、4m津波の高さ表示、複合災害を伝える写真パネル等を展示しました。
ベコ太郎も登場し、当日は多数の親子連れのお客様がブースに訪れて大盛況でした。

日 時

令和8年9月26日（土）～27日（日）

場 所

三井ショッピングパーク・ららぽーと柏の葉
（千葉県柏市）

参加人数

ブース来場者延べ約600名

主催等

主催：三井ショッピングパーク ららぽーと柏の葉
共催：イノベ機構、東京大学大学院、新地町

【出展内容】

地震・津波・液状化のメカニズムを学ぶワークショップ、実験教室「ペットボトルで液状化のしくみをまなぼう」、体験イベント「津波の高さを会場の柱で体感してみよう」、時層地図展示、複合災害の写真パネル展示、等



「福島RDM²センター2026『結』」へのブース出展（交流促進部）

福島イノベ機構では浪江町の會澤高圧コンクリート(株)福島RDM²センターで開催されたイベント『結』にブースを出展しました。

ブースではモニターやパネルによる福島イノベ構想の情報発信を実施し、多くの方に福島イノベ構想の取組みやイノベ地域の魅力を知っていただくことができました。

開催日

令和8年9月28日(月)

イベント名

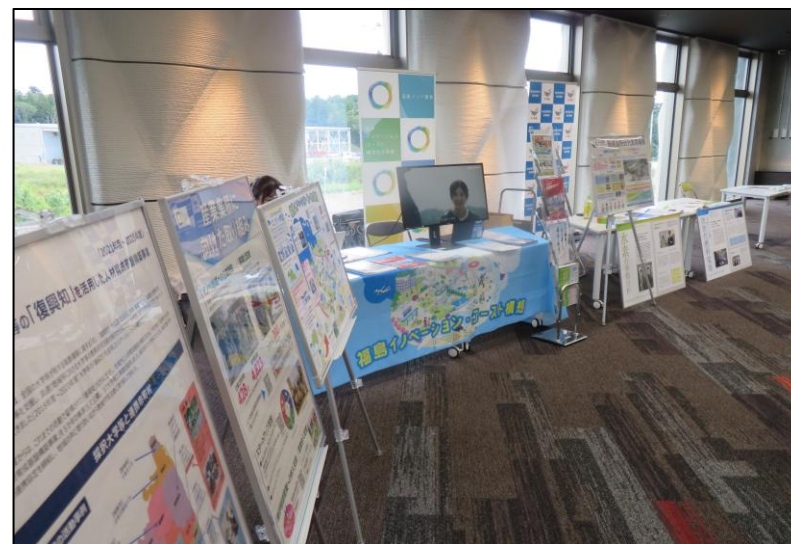
福島RDM²センター2026『結』

場 所

浪江町 會澤高圧コンクリート福島RDM²センター

主 催

會澤高圧コンクリート株式会社



避難地域 12 市町村における特色ある教育に関する教員研修

「避難地域12市町村における特色ある教育に関する教員研修」を開催した。
本研修では、震災・復興に関する学びと特別支援教育に関する理解を深めることを目的として、施設見学、講演及びラウンドテーブルを実施しました。

日 時	場 所
令和8年9月28日（月）10:00～16:10	東日本大震災・原子力災害伝承館 福島県復興祈念公園
参加人数	主 催
① 12市町村の市町村立小・中・義務教育学校教員 ② 域内の特別支援学校教員 ③ ふたば未来学園中学校 ④ 避難地域12市町村教育委員会指導主事等 ⑤ その他、希望する教員等 計70名（オンライン参加含む）	福島県教育庁 共催：福島イノベーション・コースト構想推進機構



「避難地域12市町村における特色ある教育に関する教員研修」として開催した本研修は、教員の資質向上に加え、震災や復興について学び、理解を深めることを目的の一つとして実施しました。午前の部では、東日本大震災・原子力災害伝承館を見学するとともに、福島大学特任講師の久保田彩乃氏を講師に迎え、「過去を知り、今を捉え、未来を考える」をテーマとして、相双地域の地域メディアを題材にした探究学習の進め方についてお話しいただきました。午後の部では、今年度開園した福島県復興祈念公園の会議室に会場を移し、「通常学級に在籍する特別支援を要する児童生徒への支援の在り方について」をテーマとしたラウンドテーブルを実施しました。その後、文部科学省初等中等教育局視学官（併）特別支援教育課特別支援教育調査官の菅野和彦氏を講師に迎え、同テーマについてご講演いただきました。